

# NCS Magazine

2022 July [japanchess.org](http://japanchess.org)

## #2

Interview (前編)

**FM 青嶋未来**

**特集: 全日本チェス選手権2022**

[自戦記] 山田弘平・篠田太郎・坂井あづみ

# NCS Magazine # 2 July 2022

## Tournament Report

03 特集

### 全日本チェス選手権 2022

[入賞者・参加者自戦記] 山田弘平・篠田太郎・坂井あづみ

25 ゴールデンウィークオープン2022

## Interview

14 FM 青嶋未来さん（前編）

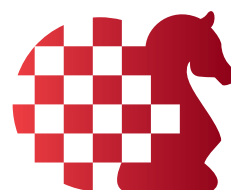
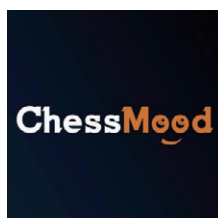
28 三津山六花さん

17 名プレイヤーから学ぼう vol.2 William Steinitz 山田弘平

24 チェス大会 in アメリカ NO.60 上杉和哉

26 タクティクス・ジム 02 ダブルアタック 山田明弘

30 CHESS AROUND THE WORLD Kinoshita, Kanako



National  
Chess  
Society of  
JAPAN





# Tournament Report

大会レポート

特集：

## 全日本チェス選手権 - 第23回アルゼンチンカップ -

NCS Japan Chess Championship  
3rd Argentina Cup April 30th - May 4th 2022





## 「さあ、日本一を決めようじゃないか」

日本中がゴールデンウィークで浮き立つ中、チェス関係者も騒めきと緊張に包まれます。全日本チェス選手権 2022 第 23 回 アルゼンチンカップ。4 月 30 日から 5 月 4 日までの 5 日間、東京、北区の北とぴあを会場に 9 ラウンドを戦い抜き、その年の日本チェスチャンピオンの称号を賭けた大会です。

前回の 2021 年大会はコロナウィルス感染拡大のため中止になり、2 年ぶりの開催となりました。フルラウンドでの開催となると実に 3 年ぶりです。まん延防止等重点措置が既に 3 月には解除となっていました、感染予防に万全を期すため、会場は密を避けて 3 部屋に分かれての開催となりました。9R スイスで、持ち時間は 90 分 + 30 秒 / 手。NCS 並びに FIDE の公式戦です。

## 最終戦までもつれ込む白熱した展開

参加資格は期間中 NCS 会員であり、全日本のシード選手であること。日本チェス国籍以外の選手も入賞できますが、日本チェスチャンピオンの称号は日本チェス国籍の選手のみ受けることができます。

今年の参加者は 63 名でした。参加人数が過去最多であり、また歴代の選手権優勝経験者が 7 名も出場して華やかな大会となりました。

結果は、最終ラウンドまで優勝を巡って 7 名（優勝経験者 4 名と



未経験者 3 名）が大混戦を繰り広げました。最後まで目が離せない熾烈な戦いとなって、日本のチェスファンを熱狂させることとなりました。

最終戦の終盤。トップボードの部屋は静まり返り、物音ひとつ立てるのも憚られるピリピリとした空気が漂っていました。日本で一番を目指す者たちが集まる場所ならではの緊迫感。それを現場で、あるいは YouTube 配信の画面越しに味わうことができたのは、チェス愛好者にとって贅沢な体験だったと思われます。

5 日間に渡った熱い戦いを制したのは青嶋未来で、3 年ぶり 2 度目の優勝です。鮮やかな指し回しは配信動画でどうぞご覧ください。



[【日本最強決定戦】全日本チェス選手権 2022 再生リスト](#)

小林厚彦（左上）、平尾聡至（右上）、大塚翔生（左下）、松尾朋彦（右下）

## 大会経過

### 1R（4 月 30 日午後）

大会初日。ラウンドの 2 時間以上も前から遠方参加の選手も集まり、会場外では受付を済ませた者たちが久々の再会を懐かしむ姿が数多く見受けられました。OTB（Over the board の略。対面で行うゲームのこと）がようやく復活した喜びで皆の顔が輝いていました。

定刻 14 時ちょうど（今回はデジタル時計をオフィシャルクロックとして利用）に 1R 開始。1 人が遅刻しましたが 13 分後に現れ、運営スタッフは胸を撫で下ろしました。規定で 30 分以上遅刻すると不戦敗となるからです。

結果は、スイス式 1R の特性（対戦者同士のレーティング差が

Averbukh Alex

大きい)もあり、おおむね上位者が順当に勝ちましたが、山田弘平 2161vs 坂井あづみ 1739 と東野徹男 2104vs 中川晟志 1691 で、坂井と中川がそれぞれドローを獲得したのが話題となりました。

## 2R・3R (5月1日)

2日目を迎え、昨日よりも選手はリラックスしたムードで、開始直前まで談笑する姿が会場のあちこちで見られました。10時ちょうど、定刻に第2Rがスタート。

開始して2時間後に最初のゲームが終わり、3時間が過ぎた13時頃からバタバタとゲームが終わり始め、14時過ぎに全ゲームが終了しました。注目は2番ボードで大塚翔生 1973 が小島慎也 2353 から、また6番ボードで前嶋啓彰 1843 が Averbukh Alex 2144 から、14番ボードで坂井あづみが東野徹男から、それぞれドローをもぎ取ったことです。優勝を狙う3人には手痛い足踏みとなり、大会が混戦となる雰囲気は早くも漂い始めました。

この日は午後から雨となりました。昼食休憩後、参加者が傘を手

にして戻って来ます。15時定刻に第3Rがスタート。1番ボードから5番ボードまでは2連勝同士の組み合わせとなり、スイス式特有の「星のつぶし合い」が始まりました。

開始して3時間後からゲームが終わり始めます。下位ボードが早く終わり、上位ボードが長引く傾向でした。そして19:13、最後に残った1番ボードがドローとなり、全ゲームが終了しました。結果は、YouTube 配信した上位3ボードがすべてドロー決着する一方、4番の篠田太郎 2012 と5番の小林厚彦 2141 が勝って3連勝となり、明日の第4Rで直接対戦することが確定しました。

## 4R・5R (5月2日)

雨も上がって曇天の朝。10時定刻に第4Rが開始しました。順調なスタートかと思いきや、開始直後に25番ボードの黒からスマホ電源切り忘れの申告があり、白が勝ちとなるハプニングがありました。

さて1番ボード、注目の全勝対決は小林厚彦に軍配が上がり、ただ一人、4戦全勝で単独トップに立ちました。次いで3.5ポイントに Tran Thanh Tu 2386、青嶋未来 2342、大塚翔生、Averbukh Alex の4人が半ポイント差で追いつぎます。

午後の第5R、1番ボードで Tran Thanh Tu と小林厚彦がぶつ



かります。白の Tu の初手は 1.Nc3 でした。変則的なオープニングですが、これが Tu の十八番であり、奔放な指し回しで「Tu ワールド」全開です。全日本で過去3回優勝の貫録を見せた Tu が小林をねじ伏せ、4.5ポイントとなって首位が入れ替わります。青嶋が Alex と引き分けたのに対し、大塚が松尾朋彦 2148 を破って 4.5ポイントになり、Tu と首位に並びました。新顔選手の大躍進に、YouTube 配信も大いに盛り上がったようです。

## 6R・7R (5月3日)

朝から晴天の4日目。大会も徐々に煮詰まってきました。

4.5ポイントが2人に4ポイントが8人、計10人が0.5ポイント差にひしめく状況で始まった第6Rでは、トップボードで大塚が Tu からドローをもぎ取り、混戦に拍車がかかります。隣の2番ボードでは、大会序盤で出遅れていた小島が東野を下し、3連勝で急浮上。この結果、Tu、大塚、青嶋、小島、小林、Alex の6人が5ポイントで首位に並びました。文字通り、横一線の激戦です。



東野徹男



午後3時開始の第7Rでは、同率首位に並ぶ6人が、中継の3つのボードに勢ぞろいしました。1番ボードのTu対Alexは、互いに終盤力のある2人による、見ごたえのある熱戦の末にAlexが勝利。2番ボードの小林―小島の慶応対決は、後輩の小林が優勢を掴みましたが、QvsRRのエンドゲームでまさかの大逆転で小島が勝ちました。3番ボードは青嶋―大塚。ここまで快進撃中の大塚は、今大会5人目となる元チャンピオンとの対局でしたが、力及ばず、青嶋が勝利をおさめました。

この結果、首位は6ポイントで小島、Alex、青嶋の3人。次いで5ポイントに大塚、Tu、小林、篠田、松尾、東野、山田弘平の7人。未だ2試合が残っていますから、この10人の内の誰が優勝するか、全く予想がつかぬまま、最終日を迎えることになりました。

余談ですが、たまたまこの日には建物の別の階で象棋（シャンチー、中国の将棋）の日本選手権が行われ、こちら、チェス大会の様子をドアの外から眺める人がいました。今年は感染防止対策により見学には事前申請が必要で、飛

び入りの観戦ができなかったのが残念でした。来年は、ぜひ！

## 8R・9R（5月4日）

最終日はラウンド開始が9:30と、これまでより30分早い設定でした。運営側としては最も厳しい時間設定でしたが、8:55に部屋の鍵が開くなりセットアップ（机を並べ替え、盤を置き、駒を並べ、時計をセットし、選手名プレートと棋譜用紙を設置し、最後に再点検）を開始し、約10分でセットアップ完了、9:15には階の異なる3部屋ともスタンバイ完了と、スタッフ一同、素晴らしいチームワークを見せてくれました。

第8Rはボードの上から順に1B小島―青嶋、2BAlex―小林、3B篠田―Tu、4B大塚―山田、5B松尾―東野。結果は小島―青嶋がドローとなる一方、小林、Tu、山田、松尾が勝って首位との差を縮めました。

そして第9R。小島と青嶋が6.5ポイントで首位ですが、0.5差の6ポイントでTu、Alex、小林、松尾、山田の5人が追走し、5.5ポイントの4人（野口、塩見、牧

野、Wijaya）にも入賞（5位までの）の望みが残る大混戦のまま、午後2:30、いよいよ最終戦のキックオフです。組み合わせは1BがTu―小島、2B青嶋―松尾、3B山田―Alex、4B塩見―小林、5BWijaya―牧野、6B野口―篠田。

静まり返った室内に時計を押す音だけが響き、時を刻むこと2時間超、17時頃に1番ボードでは黒の疑問手19...f6に対して白20.Be3から数手で白ポーンのプロモーションが受からなくなり、白がはつきり優勢になりました。穏やかなゲーム展開だった2Bは17:20頃、黒の疑問手27...Bg3に対して白が28.Bxg7のタクティクスで主導権を握り、その後も31.Rxf4のエクステンジサクリファイスで鮮やかに勝利しました。そして18時頃、1Bは43.b5を見て黒の小島がリザインし、青嶋の3年振り2度目の優勝が決まったのでした。

こうして全日本選手権2022は幕を閉じました。総計404ゲーム、5日間に渡る白熱した戦いの結果、2022年の日本チェスチャンピオンの称号を得たのは青嶋未来でした。

白熱する第9R。小島慎也（左）と Tran, Thanh Tu（右）



### 優勝者、青嶋未来のコメント：

「前半の2局がドローに終わり苦しんだため、途中まで優勝する気がしませんでした。一生懸命やってはいるものの、正直、脱落するだろうと思っていました。だから信じられません。2年前に優勝してからコロナで海外大会に行けない中、上を目指すモチベーションを保つのが大変でしたが、こうして国内の（大きな）大会を体験できて嬉しいです。」

青嶋には優勝記念の盾と賞金と、アルゼンチン大使館マルティン・コンスタンソ書記官よりカップが贈呈されました。入賞者は右記のとおりです。表彰式では併せて今年のチェス・オリンピアードの日本代表内定選手の発表も行われました。

「疲れた。もう何も考えたくない。早く帰ってハンバーグカレーが食べたい。」試合直後にこう語ったのは、YouTube 公式チャンネルでもお馴染みの篠田太郎です。隣で聞いていた、大会アービターの阿部裕太は「試合終了後、気がつけば汗だくになっていることがある」と、自らのプレーヤー体験を披露しました。二人が口を揃えて言うには「大会が終わると体重が減る!」でした。新しいダイエット法として、チェス大会参加をお薦めします（科学的根拠はありませんw）。

では皆さん、また来年！

文／神田大吾・原島もも



アルゼンチン大使館よりカップを授与される青嶋未来

### 全日本チェス選手権

#### ◆オープン

1	青嶋 未来	7.5/9
2	Tran, Thanh Tu	7.0
3	山田 弘平	7.0
4	小島 慎也	6.5
5	小林 厚彦	6.5

#### ◆女子

1	坂井 あづみ	4.0
---	--------	-----

#### ◆ジュニア (U18)

1	岡部 悠真	4.5
---	-------	-----

#### ◆シニア (O50)

1	義之 岳史	5.0
---	-------	-----

### チェス・オリンピアードの日本代表選手

(内定選手の一部辞退により、選考規定に従って繰り上がり)

#### 【オープン日本代表】

IM 小島 慎也  
CM Tran, Thanh Tu  
FM Bibby, Simon  
小林 厚彦  
CM Averbukh, Alex

#### 【女子日本代表】

WCM 坂井 あづみ  
WCM 小島 なつみ  
三澤 由季  
荒井 優希  
三津山 六花



有田焼の駒は左よりジュニア、女子、シニアの優勝者に贈呈された



アルゼンチンカップ

スポンサー：



Embassy of the  
**Argentine Republic**  
Japan





入賞者自戦記

山田弘平

## 複雑な戦い

今大会は悲劇的な前半戦でスタートしたにも関わらず、後半の4連勝でなんとか3位に食い込むことができました。全体を通してみれば、とても満足のいくパフォーマンスとは言い難いですが、その中でも比較的面白かった8ラウンドのゲームを解説したいと思います。

Otsuka, S (1973)

FM Yamada, K (2161)

Japan Chess Championship 2022 (8)

**1.e4 c5 2.Nf3 d6 3.d4 cxd4 4.Qxd4!?** 対戦相手の大塚さんは、今大会最も注目を集めた選手と言って良いでしょう。このラウンドまでのパフォーマンスレーティングは2200を超えており、上位勢の中で最も安定したプレーを見せていたと思います。

4.Qxd4 は Najdorf に対するメインライン外しの一つですが、オンラインチェス全盛となったこの数年で、トッププレイヤーにも見直されたラインです。

**4...Nc6 5.Bb5** 白は素直に Maroczy Bind を作るラインを選択しました。最近では、5.Qe3 と引いてぎりぎりまで手の内を見せない指し方が流行している印象があります。

**5...Bd7 6.Qd3 g6 7.c4 Bg7 8.O-O Nf6 9.Nc3 O-O 10.h3 a6 11.Bxc6 Bxc6 12.Nd4** ここまではお互いにほぼノータイム。4手目以降は想定通りの進行でした。

**12...Qb6!?**



ちょっと変わったアイディアですが、早めに b2 にプレッシャーをかけて白の展開を邪魔すると同時に、白の応手によっては積極的に c4-e4 のバインドを崩しにくく狙いです。

**13.Rd1! Nd7!** 13.Be3 には 13...Qxb2 14.Nd5 Bxd5 15.exd5 Nd7 とする予定で、c4 のポーンを狙うことができるエンドゲームに入れれば黒は満足です。

13.Rd1 は白がアドバンテージを取りに行くならベストの一手です。対して黒は 13...Nd7 とポジショナルトラップを仕掛けます。

**14.Nxc6** 自然な 14.b3?! は 14...Qxd4! 15.Qxd4 Bxd4 16.Rxd4 b5! と反撃して、黒に不満のない局面となります。

このタイミングで 14.Be3 は有力な手で、14...Qxb2 15.Rab1 Qa3 16.Nxc6 bxc6 17.Nd5 Qxd3

18.Nxe7+ Kh8 19.Rxd3 Ne5 20.Rxd6 と強制的に難解なエンドゲームに突入します。黒にとっては怖い変化ですが、c4 や e4 をターゲットにできるので、少なくとも Maroczy Bind の理想形からは逃れていると考えていました。

本譜は 14...Qxd4 を避けるため白から 14.Nxc6 と指してきました。

**14...Qxc6!?** 自然な手は 14...bxc6 ですが、以前似たような形を研究したときに Qxc6 から b5 を狙う形も有力なのでは? と考えた記憶があったため、こちらを試します。この変化で Nxc6 に対して ...Qxc6 と取った実戦例はなく、新手のようです。

**15.Bg5?!** 定跡を外れて、複雑な戦いに突入します。この手はセンターのポーンを取れるため直感的に良くないと感じましたが、実際は予想以上に難しい展開となりました。

白としては、15.Nd5 Rae8 の交換を入れておくべきで、その理由は次の手で明らかになります。

**15...Ne5?** c4 のポーンを取りに行きましたが、15...Nc5! 16.Qc2 Bxc3 17.Qxc3 Nxe4 -/+ と、e4 の方を取るのが正しかったようです。白が 15.Nd5 を先に指していればこの筋はありません。

**16.Qg3 f6 17.Bf4 Qxc4** 黒は 1ポーンアップとなりました。そこまで大きな有利ではないと思って



3位に入賞した  
山田弘平  
(右から2番目)



はいましたが、実際には白にも十分な反撃があり互角の形勢のようです。

**18.Rac1 Rae8 19.b3 Qb4 20.Qe3 Nc6 21.Nd5 Qa5 22.a4 Kh8** どのようなプランで指していくか難しい局面ですが、このあたりは駒得を活かすため黒の陣形を整えることを中心に考えていました。黒は Rf7、f5、e6 または e5 のような手を指すことになりますが、白の手によって組み合わせや順番が変わっていくので、ミスが出やすい展開です。

この局面にいたっては互角かなと考えるようになっていましたが、次の手で局面が動き出したのはありがたかったです。

**23.g4?** 積極的な一手ですが、白のキングが弱まったのは黒にとってプラスです。チャンスとみて、...f5 を絡めた反撃を仕掛けようとしたのですが、まだ 30 分の持ち時間が残っていましたし、もう少し時間を使って読みを入れるべきでした。



**23...e6?** このゲームで唯一、確信を持たずに指した一手です。おそらく良いだろうと思って指しま

したが、読み抜けもありそうので怖い展開です。実際、お互いに気づいていなかった読み抜けがありました。

**24.b4?** 最も自然かつ積極的な一手で、私もこの手を本線に読んでいましたが、ここで形勢は黒に傾きました。

ここでは 24.Bxd6! が正着でした。試合中は、24...exd5 25.Bxf8 Bxf8 26.Rxd5 Qb4 と進めば白のポーン形が弱く、黒が戦えると読んでいました。しかし実際には、24...exd5 の瞬間に 25.Rxd5! と先に取り返す手があります。このときに Qb4 とできないのがポイントで、黒は 25...Qxd5 26.exd5 Rxe3 27.Bxf8 Bxf8 28.dxc6 Re8 と進めて、ドローで妥協するよりありません。

**24...Qd8 25.Nb6** エンジンによるとこの手が敗着ですが、25.b5!=/+ を実戦で発見するのは容易ではないでしょう。お互いに 23-24 手目が一番の勝負所でした。本譜は黒から気持ちの良い手が続きます。

**25...e5! 26.Bg3 Nd4 27.a5 f5!**



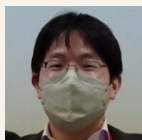
白のビショップを働かない位置に追いやり、ナイトをセンターに跳ね出してから 27...f5 とすることで、23.g4 のデメリットをついた形になりました。

**28.Rc8 Qxc8! 29.Nxc8 f4! 30.Bxf4 exf4 -+** 28.Rc8 にはクイーンを切って一直線の変化に突入します。d4 のナイトがよく働いていて、白クイーンには有効な逃げ場がほとんどありません。

30.Qd3 には 30...fxg3! 31.Nxd6 Re6! 32.Nxb7 Ref6 と攻めあって勝つことができます。この変化も読み切って 27...f5 を指せたのも、このゲームが印象に残った理由の一つです。

**31.Qd3 Rxc8 32.h4 Rc3 33.Qf1 Be5 34.Kh1 Rfc8 35.Qg2 f3 36.Qf1 Ne2 37.Qh3 Rc1 0-1** 最後は、g と h のポーンがないのにバックランクメイトというちょっと珍しい形でフィニッシュとなりました。

今大会は前半と後半で出来不出来の差が大きかったので、次の大会ではこのゲームのようなパフォーマンスを常に発揮できるよう、頑張りたいと思います。



参加者自戦記  
篠田太郎

## チェスプレイヤーは何をそんなに考えているのか

NCS マガジン読者の皆さん、こんにちは。3年ぶりにゴールデンウィークの全日本チェス選手権が開催され、コロナ禍以降インターネット配信での実況解説をメインの活動にしていた私も、プレーヤーとして参加して来ました。

NCS の大会中継は日進月歩で進化しており、日本チャンピオンを巡る熾烈な争いが、連日実況解説付きで配信されました。長い対局だと4時間を超えるものもあるわけですが、もしかしたらチェスを始めたばかりの方は「この人たちって、4時間も何をそんなに考えているの?」と疑問に思われるかも知れません。この記事では、私のゲームからいくつかの局面をピックアップして、特に手を決めるのに時間がかかりがちなミドルゲームにおいて、何をどのように考えていたか解説しようと思います。

**Shinoda, Taro (2012)**

**CM Matsuo, Tomohiko (2148)**

Japan Chess Championship 2022 (3)

開幕2連勝で迎えた3試合目、相手は同じ高校の大先輩、松尾さんでした。

1.d4 Nf6 2.c4 e6 3.g3 Bb4+ 4.Nd2 0-0 5.Bg2 d5 6.Ngf3 b6 7.cxd5 exd5 8.0-0 Bb7 9.Ne5 Nbd7 10.Ndf3 Ne4 11.Qa4 Nxe5

12.Nxe5 Bd6 13.Bf4 Re8 14.Rfd1 g5 15.Be3 h6 16.Rac1 Qe7 17.f3 Nf6 18.f4 Nh5 19.Bf3 Ng7 20.Qb3 Rad8



Position after 20...Rad8

この局面に至るまでも少しずつ持ち時間を使っていましたが、ここが一つ目の考えどころでした。手を考えるときは、**駒を取る手やチェックする手、駒を狙う手を優先して考える**ことが多いです。この局面ではまず、21.Bxd5 と d5 のポーンを取る手について考えました。

21...Bxd5 22.Qxd5 と続くと白は1ポーンアップになりますが、次は黒の番です。自分の手で読みを止めるのは基本的に危険で、特にここではクイーンが d8 のルークに狙われそうです。したがって、白はもう少し読む必要があります。

22...Bxe5 23.Qxe5 と進み、白は1ポーンアップの状態をキープしています。ここで 23...Qxe5 24.dxe5 と進めば、白は危なっかしいクイーンを捌いて一息つけそうです。しかしこれは落とし穴で、23...Qf8 (23...Qd7 でも似た形になります) とされると次の局面図に至ります。



Analysis Diagram after 23...Qf8

黒がクイーン交換を拒否すると、今度はクイーンが e8 のルークに狙われることになります。残念ながら、白はクイーンを避けながら e3 のビショップを守る方法がないため、当初は1ポーンアップになるかと期待していましたが、これではピースダウンになってしまいます。

ここまで読んでわかったことは「21.Bxd5 は指せない」ということです。何を指すかを決めなくてはならないのに、時間をかけて指せないことがわかるというのは皮肉な話ですが、これは必要経費です。**指してからダメだと気付いても手遅れ**だからです。

ここまで書いたような短期的な読みにおいては、次のようなことに注意しましょう。

- ・見切り発車で指さない
- ・自分の手で読みを止めない
- ・自分に都合良く考えない

さて、21.Bxd5 は残念ながら手くいかなことがわかりましたが、全くの無駄だったわけではありません。e3 のビショップが他の駒に守られていないのが、上手くいかな原因になっていること



が分かったので、私は

## 21.Bf2

を指しました。一手指すのにこんなことを考えているのです。

21...Qe6 22.Bg4 f5 23.Bf3 g4  
24.Bg2 Nh5



Position after 24...Nh5

次はこの局面で考えていたことを解説します。

まず初めに、この局面では一つ目の局面で考えたような短手数やり取りでの駒得はありません。こんな時に何を考えればいいのかわからない、という悩みを抱えるプレイヤーは少なくないと思います。

ここで私は「白の働きが悪いピースはどれか」を考えました。働きが悪いピースとは、相手の駒を攻撃していない、もしくは攻撃できそうにないピースのことを指します。ここでは、自分のポーンに利きを遮られている f2 のビショップの働きが悪いです。したがって、次はこのビショップをどうやって働かせるかを考えます。

ビショップは自分のポーンに利きを遮られないところで輝くことの多い駒なので、それを踏まえると Bf2-e1-b4 という経路が良さそ

うです。b4 に辿り着いたビショップは d6 のビショップと交換されてしまうかも知れませんが、d6 のビショップは働きのいいピースですし、これがいなくなると黒は e5 のナイトを取り除くことが難しくなるため、それはそれで白にとっては好都合です。ということで、プランを実行に移します。

25.Be1 Bxe5 26.fxe5 Re7  
27.Bb4 Rf7 28.e3 Ng7 29.Rc2  
Ba6 30.Qa3 Bb5 31.Rdc1 a5  
32.Bd2 Ne8 33.b4 a4



Position after 33...a4

最後にこちらの局面を解説します。Jacob Aagaard という GM が書いた *Positional Play*(Quality Chess 社刊) では

- ・弱点はどこか
- ・最も働きの悪いピースはどれか
- ・相手のプランは何か

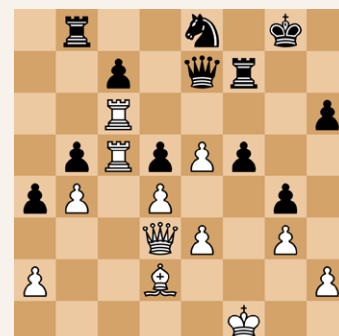
という三つの問いへの答えを考えることが大切だとされています。

この局面では主に一つ目の問いを重視していました。

黒はたった今突いた a4 のポーンや白の重なったルークに攻撃されている c7 のポーン、そしてピースが侵入して来た時にポーンで追い返せない c6 のマスが弱点として挙げられます。弱点とは必ずしも駒だけを指すわけではなく、マスを指すこともあるというのも重要です。

a4 のポーンが取られず、c6 にルークが侵入されないようにギリギリ支えているのは、b5 のビショップです。g2 のビショップは働きが悪いわけではありませんが、ルークが c6 に侵入できることの方が強力なので、交換を迫ります。

34.Bf1 Bxf1 35.Kxf1 b5 36.Rc6  
Qe7 37.Qd3 Rb8 38.R1c5



Position after 38.R1c5

白は二つのルークとクイーンの



働きを大きく改善することに成功し、決定的なリードを得ました。ここからは相手のカウンタープレーに注意しながら、短期的な読みシフトして取れる駒を拾っていきます。

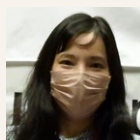
38...Qg5 39.Rxb5 Rd8 40.Ra5 h5 41.Rxa4 h4 42.Raa6 [43. Rg6+ が狙い] Rg7 43.Be1 [働きの悪いビショップに守備の役目を与えます] hxg3 44.Bxg3 Kf7 45.Rh6 [46.Bh4 でのクイーントラップが狙い] Nd6 46.Rf6+ Ke7 47.exd6+ cxd6 [47...Kxf6 48.dxc7+ Ke7 49.cxd8Q+ で白優勢です] 48.Rfxd6 f4 49.exf4 Rf8 50.Qe3+ 1-0

このようにミドルゲームでは短期的なやり取りのタクティクスと、中長期的なプラン作りのストラテジーを織り交ぜながら一手一手を指していきます。どちらか一方だけが得意では不十分で、タクティクスはチャンスが訪れたときに確実に掴み取るために、ストラテジーはチャンスが訪れる状況を作り出すために鍛えていくことが必要です。

タクティクスは本やアプリの問題集を使って独力で鍛えやすいのに対して、ストラテジーは自学自習しづらいところがあります。解説付きの棋譜を並べたり、上手な人の説明を聞いたりしながら、局面の捉え方や思考の仕方を少しずつ身につけていくのが良いのではないのでしょうか。

松尾さんとの対局を制し、開

幕3連勝で一瞬だけ1位となった私は、その後は勝ったり負けたりを繰り返し、スタート順位と同じ13位で大会を終えました。百点満点の出来というわけではありませんでしたが、最終日まで上位ボードで戦い続け、たくさんの経験を積めたことに満足しています。また次の大会に向けて、勉強に励みたいと思います。



入賞者自戦記  
坂井あづみ

## ルークエンディング

全日本チェス選手権に参加してきました。結果は2勝3敗4ドローの4.0/9で女子1位になり、自戦記を書く機会を頂きありがとうございます。今大会では、複数の強豪にドローと善戦したものの、改めて勝つことの難しさを思い知りました。

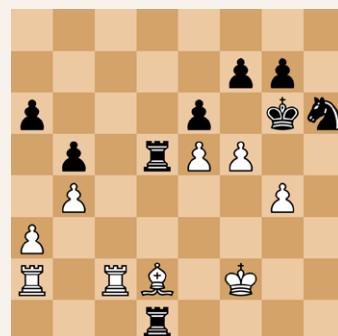
ポーンアップしても勝てないルークエンディングを紹介したいと思います。

Sakai Azumi (1739)

Higashino Tetsuo (2104)

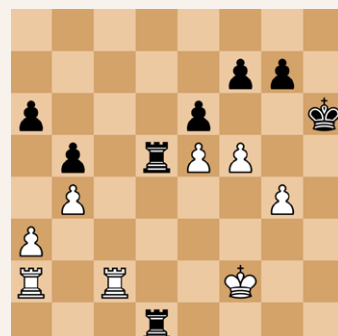
Japan Chess Championship 2022 (2)

35. f5+!?



gポーンが当たっていますが、キングで守ろうとするとルークにチェックされて危険になります。そのため、fポーンでチェックをして駒の交換を狙いました。

35...Kh7 36. Bxh6 Kxh6



白は、ずっと狭くて苦しかったのですが、ここまで来ると白が少し良いのではないかと思います。なぜそう思ったのか、続きを見てみましょう。

38. fxe6 fxe6 38. Rc6! f5+ を指

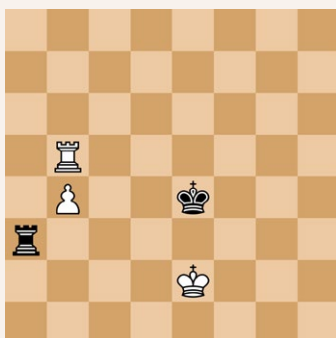


女子1位に入賞した  
坂井あづみ (右)



した時にイメージしていた手で  
す。黒の a と e のポーンを狙っ  
ています。

38...Rxe5 39. Re2 Rxe2 40. Kxe2  
Ra1 41. Rxe6+ Kg5 42. Rxa6  
Kxg5 43. Rg6+ Kf4 44. Rxg7  
Rxa3 45. Rb7 Ke4 46.Rxb5



ポーンアップできると思って指  
していたのですが、ポーンが1つ  
しか残りませんでした。また、黒  
のキングとルークの位置が良く、  
白のキングとルークの可動域が狭  
いです。

46...Ra2+ 47. Kd1 Kd3 48. Kc1  
Kc3 49. Kb1 Rb2+ 50. Kc1 Ra2  
47. Kd1 Kd3 48. Kc1 Kc3 49.  
Kb1 Rb2+ 50. Kc1 Rxb4 51.  
Rxb4 Kxb4 1/2-1/2

手数はそこまで長くないもの  
の、キング以外の駒が全て盤上か  
らいなくなり、ドロオファーを  
する必要もなくドロになる大熱  
戦でした。

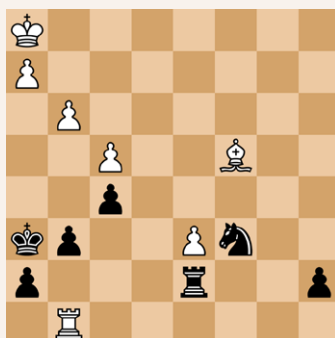
もう一つ、ルークエンディング  
を紹介します。

Mitsui Ryoya (1841)  
Sakai Azumi (1739)

Japan Chess Championship 2022 (5)

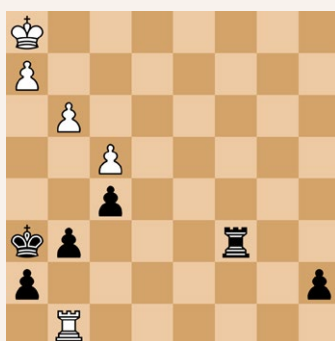
学生チャンピオンの三井君との  
対戦でした。東京選手権で負けて  
しまったばかりなので、リベンジ  
を目指したいところです。

50...Kh6



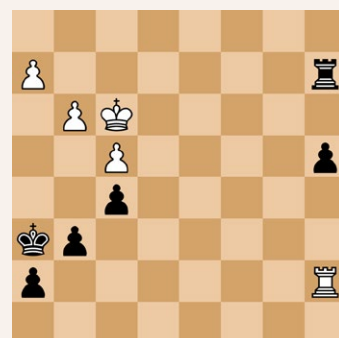
ルークにチェックされて、キン  
グが逃げた局面です。白は次に d  
ポーンが取れそうなので、勝てる  
のでは！？と勘違いします。

51. Bb5 Rxd6 52. Bxc6!? Rxc6



実はこれ、教科書で良く見る  
勝てない形ですね。fgh ポーンが  
残っているので、チャンスがある  
のではと思って指していました。

53. Kg2 a5 54. Ra8 Rc2+ 55. Kf3  
Ra2 56. Ra7 a4



白のルークが h7 と a4 の両方  
を攻撃しているため、黒のルーク  
は a ポーン、黒のキングは h ポー  
ンを守るために身動きが出来ませ  
ん。そのため、せっかくポーンが  
一つ多くても勝てません。無理に  
勝とうとして、ポーンを落とし  
そうになったところでドロオ  
ファーをしました。66手でドロ  
合意。今大会の私の試合で最も長  
手数の試合でした。

ルークエンディングを2試合紹  
介させて頂きました。強豪はポー  
ンダウンで受ける側でもミスを出  
さずに落ちついて指されていて凄  
いなど改めて感じました。強豪に  
ドロが取れるようになったとい  
う手応えと同時に、勝てそうにな  
いという力の差も感じました。

一方、2月の千葉選手権では  
ルークエンディングでリスクな  
手を続出させていたのに対して、  
全日本では安定した指し方が出来  
たように思います。

7月末に参加するオリンピ  
アードでは、海外の強豪相手にも引き  
続き安定した指し回しが出来たら  
と思います。日本代表の応援よろ  
しくお願いいたします。

# Interview

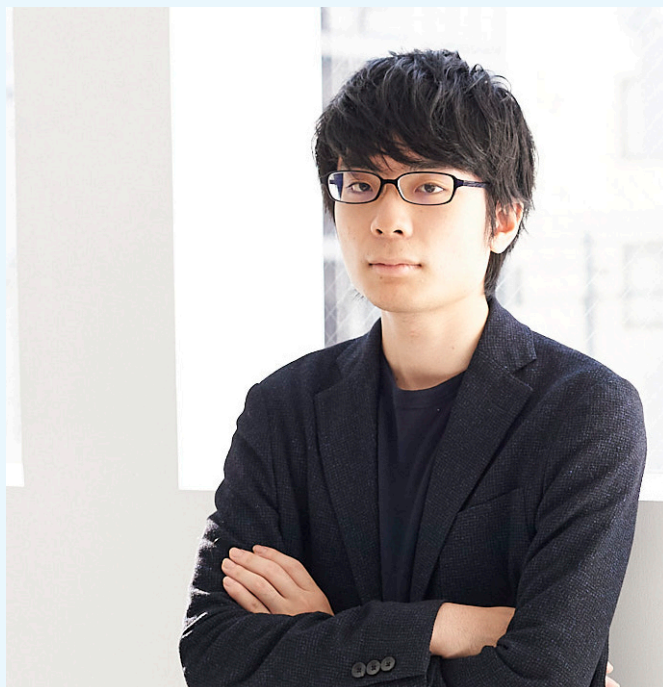
## インタビュー 前編

### 青嶋未来さん

#### 新しいことに挑戦したい その気持ちが 次の扉を開いてくれる

あおしま・みらい

1995年生まれ、静岡県三島市出身。麻布高等学校卒業。6歳の時父親が購入してきた本で将棋を覚え、小学生の頃から頭角を表す。チェスを始めたのは2014年頃で、翌2015年の全日本快速選手権では初参加で初優勝。2019年の全日本チェス選手権で初優勝し、2022年の同大会で優勝に返り咲いている。



チェスと将棋。両輪を力強く稼働させ前進する青嶋未来さんは、2年ぶり開催の全日本選手権で再び頂点に立った。この大会の振り返りと、両輪を知る者だからこそ感じる違い。そして新たに挑戦することへの展望から、チェスの未来が予測できるかもしれない。

また、彼と同時対局できるドリームアカデミアについても聞いてみたい。今注目の彼の言葉を、前後編に分けてたっぷりお届けする。

#### 3年ぶりの優勝となりました

私が2019年に優勝して、2020年にTuさんが優勝して…。あ、去年は全日本は開催されなかったんですよ。

Tuさんはとても強いプレイヤーですし私自身かなり負けているので、Tuさんが優勝しても不思議ではなかったと思います。

OTBでは負けている印象はなかったと思いますが

通算でいうと、かなりTuさんに負けているので。全日本も3回優勝されていますし、Tuさんが優勝するんじゃないかと。強いなと思っているので。

一度全日本チャンピオンの座を逸したのは残念でしたが、しょうがないかなとも思っていました。だから今年は頑張ろうと思って出場しましたね。

#### 直接対決はなかったですね

そうですね、組み合わせの妙というか（笑）

正直言えば私にとってはかなり分が悪かったから、ありがたいといえばありがたかったかもしれません。大会前はTuさんとは当然当たるものだと思っていたので、やや意表の結果になったというか。

かなりの混戦模様になってなかなか予想できない展開になったため、たまたま当たらなかったという感じでしたね。

#### やはり目標は「優勝」でしたか？

やるからには全部勝ちたいと思っているんですけど（笑）

優勝よりは、目の前の試合を全て勝つことを目標にしています。当然そうなるわけではないんですが、そのつもりでやってます。

Tuさんとか小島さんみたいな強いプレイヤーがいますが、それでもレーティング帯でいうと同じ2300台ですので、どちらが勝ってもおかしくない。その中だったら全部勝つことを目標にはしていますけどね。それが達成されることはあまりないのですが、そう思って試合に臨んでいます。

#### 予想外の試合や印象に残った試合を教えてください

印象に残った試合はいくつか、いや、結構いろいろあるんですけど（笑）

個人的に気になったのは3ラウンドの義之（岳史）さんとの試合。あれは「やってしまったな」という



感じでした。基本的に全部勝つことを目指してるからドローはかなり痛かったし、正直かなり落ち込みました。レーティング的にも離れている相手なので。

勝つのは決して簡単ではないとわかっているんですが、とはいえ、それでも勝っていきたいところではあったから。結構そういうことで落ち込むタイプなので、この大会はだめかと最後の試合までずっと思っていました。

一局負けてしまったから優勝できなかったことがあるので。

### とはいえ、引き分けたあともずっと3位以内でしたね

混戦になっていたから。今回は上位のドローが多くて、展開がよかったんですよね。なので、たしかに優勝が厳しくなった場面というのは実はなかったのかもしれない。

あと印象に残っているのは7ラウンドの大塚（翔生）さんですかね。大塚さんはTuさんや小島さん相手にも勝ちのポジションを作っていたので、かなり強いプレイヤーなんです。

最近出てこられたプレイヤーで、実はチェス歴は1年ちょっとなんです。将棋もされていて結構強いということで、自分に似てるんです。なんていうんですかね、成長の仕方が自分に似てるプレイヤーだと思って。なかなかそういう人は出てこなかったから、ついにそういう人が現れたかと思いました。かなり警戒はしていたので、そこだけは頑張ろうと気合いが入っていましたね。自分に重なる部分が見えたから、

ここでは負けられないかなと（笑）

手数は長くなかったのですが、最後まで勝敗がわからない力が入っていた試合でした。

もちろんそのあとの小島戦も。小島さんとの試合だから、気持ちは入っていました。

（編集部追記：青嶋さんご自身の[ブログ](#)で自戦記をご覧ください。）

### 意外な混戦でしたが、今までの全日本と違いは感じた？

これまではこんなことはなくて。小島さん、Tuさん、私の3人と他の選手とは、大体レーティングが200点くらい離れてるし、本来なら他のプレイヤーがポイントを取るの難しく、走ることが多かったから。

なかなか見ない展開でした。今回は大塚さんや（Averbukh）アレックスが活躍して、ポイントを取っていたので。

### 将棋というと、牧野光則さんもいました

牧野さんは同業者で将棋のプロです。力はあるし、熱意がすごいといえますか。牧野さんは関西の棋士だから、普段は会わないんです。東京と大阪で離れているから、話はしたことがなかった。前回（東京チェス大会1R）の大会でばったり会った瞬間に、試合で当たりました。

### 3年前に優勝した時はFM獲得直後次はIMという目標だったかと思いますが、それから目標が変わったことは？

そうですね、あの直後に2020年

になりコロナ禍になってしまいました。海外大会に行けなくなり、1、2年は国内の大会も開催されない時期がありました。

海外大会に出てレーティングを上げ、IMを目指すことができなくなった。コロナ禍がいつ終わるかもわからない状況だったから、こうなるとモチベーションは下がってしまうかなという。正直そういう面がありました。

国内の大会は出られるものは全て出て、オンラインの大会にも出場させてもらって。試合をするとそれに向けて頑張ろうという気になりますが、IMを目指す目標に関しては見失っていた部分はありますね。

### 今後チェスを仕事にすることを視野に入れていますか？

### ドリームアカデミアについて聞かせて下さい

チェスを仕事にさせていただけることについては、仕事ではあるんですがそれをメインで生業で食べるわけではないので。それが仕事か趣味かは、どちらでもいいというか。チェスは趣味だからそれで仕事をしちゃいけないというわけではないと思うし、趣味でありながらそれで収入を得るのもいいことだと思うので。

ただ、それが受け入れられているかわからないのは、社会の難しさですかね。そういうことをしていると本業やれよって。そういうのは必ずあるんですよね。

自分としてはどう思われてもいいんですが、チェスの方でも仕事をさせてもらえるのはいいことだと思います。ドリームアカデミアさん

は将棋とチェスの両方の教室をやっているから、ちょうど自分に合ったお仕事の形なのかという気がしますね。

ただ、お仕事になったときに、チェスを教えるのが向いているかどうかという問題はある。他のプレーヤーとは違うというか。将棋から入っているから、最初のチェスに対するアプローチの仕方が違うので、チェスをいちから教えるのはなかなか難しいと思っていて。自分に経験がないので。そういう意味では他の人とは変わった教え方になってしまうと思うんですけど。

### **チェスでも仕事が成り立つなら、プロになってみたい？**

現状の環境でいえばもちろん将棋のプロだと思っています。でも、いつも新しいことに挑戦したいという気持ちはあります。

今の状態だと将棋はスポンサーがついていて、自分の試合をするだけで生活できる収入はあります。自分は将棋連盟という会社に勤めていて、そのほかの仕事も将棋連盟から依頼されたり。だから、やりやすい部分はあると思う。

それがチェスになると何かに属しているわけではないので、完全に自分で決めることになる。レッスンで食べていくとなると、自分でいちから作り出すことになります。そういうことは正直やってみたいというか、面白そうだなと思う気持ちはあります。

自分自身の能力の問題もあるから、うまくいくかはわからないんですけど。

あとは、仕事か趣味かで変わってくる部分があると思うんです。趣味でやっているからこそ純粋に楽しむ気持ちがあったものの、いざ仕事でやるとそうでもない部分。昔みたいに純粋な気持ちで楽しめているかということ、そうじゃないよなって。プロとなると結果を出さないといけないし、プレッシャーがあるし、いろいろ大変なことも現実的にはあるんじゃないかと思いますね。

でもやっぱり新しい、全く新しい感じになると思うので。自分で何からやりくりできるのは、面白そうだなと思います。

### **オリンピックアードは内定を辞退されたましたが、なぜ？**

仕事の関係が大きくて。スケジュールが被るのもありますし、それを休めるかということ。ひとつではなくていくつか被っていたので。

あと、これは非常に言いにくいのですが、私自身今そこまでオリンピックアード出場に対してこだわりが強いわけではない。周りからは「出てください」と期待されているのですが、私的にはそこまで…という。そうですね。

### **青嶋さんが出場してくれたらとても盛り上がると思います**

もちろん、盛り上がりを考えたら出るべきなんですけど。

団体戦ということで、大変な面も多いと思うんです。出場したことはないからわからないんですが、他の海外大会と比べて神経を遣うことも多いでしょうし。

あと、自分が全試合出るわけで

はないし、成績が悪かったら途中から出られなくなるんですか。そういうのもありますし。

期間が長いのもありますね。私自身はちょっと体調もよくないから、どこかで体を壊すことがあるかと思う。これまでに海外に行った時も風邪ひいたり病気になったりもしたから、体調面の不安があります。他の海外大会でもそのリスクはあるんですが、期間が長いので。

もちろん行きたい理由もありますが、現実的には仕事の都合があるから厳しいのかな。今だとまだ隔離期間もあるかもしれないし、それが出てくると他の仕事ができなくなると思ったので。今回は申し訳ないですけど、応援側にまわることになりました。

### **いつかは出てみたいですか？**

やっぱり出てみたいという気持ちはありますけどね。

世界中から国を代表する強いプレーヤーが一堂に会して行われるわけですから。そういう光景は忘れられないものになるでしょうし、強いプレーヤーと対戦するのは夢でもあります。日本の代表として戦える喜びも感じられるでしょうから。まだできない経験ができるんじゃないかと思います。

次号の後編へ続くー



# 名プレイヤーから学ぼう

## Learn From Legends

### vol.2 William Steinitz

#### William Steinitz

(ウィリアム・シュタイニッツ,  
1836-1900)

オーストリアでWilhelm (ヴィルヘルム) Steinitzという名で生まれ、後にアメリカ人となったチェスプレイヤー。「オーストリアのモーフィー」として知られる攻撃的なスタイルで世界のトップに上り詰めた。

その後、コンスタントに結果を残すためには攻撃的なチェスよりも、より確実に有利を拡大する指し方が必要だと考え、「ポジショナル・チェス」の考え方を提唱した。

1886年、ライバル関係にあったZukertortと、史上初めて「世界チャンピオン決定戦」と銘打たれたマッチを戦い、これに勝利。攻撃の名手Zukertortを封じ込めたことで、現代チェスの創始者、初代の公式世界チャンピオンとして名を残すこととなった。



William Steinitz (Wikipediaより)

みなさん、こんにちは。前回の記事では、非公式の世界チャンピオンであるPaul Morphyを扱いました。Morphyの華麗な攻撃スタイルは今でも現代のチェスファンを魅了し続けています。

しかし、現代のチェスはMorphyの時代から大きく変化しています。強いプレイヤー同士のゲームにおいて、Morphyのような攻撃が決まることはほとんどありません。現代では、細かいポイントを積み重ねながら少しずつ差をつけるプレースタイルが主流となっています。

この一見地味にすら思えるプレーは「ポジショナルプレー」と呼ばれており、現代のチェスプレイヤーにとっては避けて通れないスタイルになっています。今回はこのポジショナルプレーの創始者である、William Steinitzのゲームを学んでいきましょう。

Paul Morphyはわずか数年間の華々しい活躍の後にチェスをやめてしまいましたが、当時のチェスマスターたちは誰もMorphyのプレーを模倣することができず、途方にくれていました。Morphyがプレーした棋譜は確かに存在しているにも関わらず、彼らはその高みに並び、追い越すことができなかったのです。

その問題に真剣に挑んだのが、Steinitzです。彼は様々な局面を注意深く調べ上げ、一見芸術的

【文】山田 弘平 (やまだ こうへい)

1988年北海道生まれ。FIDEマスター/FIDEインストラクター。国内大会の優勝、日本代表経験あり。日本初のスポンサープレイヤーとして活動する一方、オンライン講座で普及活動も行っている。



に見える攻撃のほとんどはおそまつなディフェンスによって成立しているのだ、ということを主張しました。MorphyやAnderssenの成功によって当時の人々が信じていた、「チェスに必要なのは攻めること」という常識に疑問を投げかけたのです。代わりに、彼は小さなアドバンテージを積み重ね、より確実な攻撃のコンセプトを編み出しました。

これがチェスの歴史の転換点でした。センターの支配、ビショッブペア、相手の弱点など小さなプラスを積み重ねて、大きなアドバンテージに変換していく「ポジショナルプレー」の誕生です。近現代におけるチェスの基礎理論は、Steinitzの時代から始まったのです。このときはまだ未完成だったSteinitzの理論は、およそ150年の間に磨かれ続けて、今では初中级者向けの本でも取り上げられるくらい、チェス界に広く知れ渡りました。

デビュー当時のSteinitzは、19世紀の他のトッププレイヤー同様、鋭い攻撃を得意とするプレイヤーとして知られていました。以前、YouTubeの講座で紹介したMongredienとのゲーム (<https://www.youtube.com/watch?v=9tcVfBW9iIw>) や、Henry Birdとのマッチではアグレッシブなプレーで相手を打ち破っています。

Bird, H

Steinitz, W

London 1866 (6)

1.f4 e5 2.fxe5 d6 3.exd6 Bxd6  
4.d4 Nf6 5.Bg5 Nc6 6.Nf3 Bg4  
7.e3 Qd7 8.Bb5



Bird - Steinitz 8.Bb5まで

8...O-O-O!? d5のようなポーン突きが見えていますが、構わずキャスリングします。キングを安全にしたというよりも、相手のキングを攻撃するためe8のマスをルークにゆずった、といったほうが正しいかもしれません。

9.Bxf6 gxf6 10.d5? 白は誘いにのりナイトを取りに行きましたが、これはSteinitzの術中にはまります。

10...Qe7! 11.Bxc6 Qxe3+ 12.Qe2 Qc1+ 13.Qd1



Bird - Steinitz 13.Qd1まで

13...Rde8+! ナイトの次はルークも捨てて、不安定な白のキングを仕留めます。

14.Bxe8 Rxe8+ 15.Kf2 Qe3+  
16.Kf1 Bxf3! 17.gxf3 Bc5! +-

f2のメイトとf3のポーンの両方を受けることができず、白は数手後にリザインしました。

イギリスでのトーナメントやマッチで活躍したことにより、Steinitzはトッププレーヤーの一人として知られるようになります。1866年にはAdolf Anderssenとのマッチが実現しました。このときのAnderssenは、引退したMorphyに次ぐ世界No.2のプレーヤーと目されていました。若きSteinitzの実力を見せつけるには、絶好の機会です。

Anderssen, A

Steinitz, W

Steinitz-Anderssen Match

London 1866 (3)

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bc4 Bc5 4.b4  
Bxb4 5.c3 Bc5 6.d4 exd4 7.O-O d3



Anderssen - Steinitz 7...d3まで

当時はKing's GambitやEvans Gambitのような激しいオープニングが主流でした。中でもAnderssenはEvans Gambitの第一人者といっても良いでしょう。

7...dxc3?とよくばると、8.Bxf7+! Kxf7 9.Qd5+と進み、駒を取り返されながら黒のキングが危険になります。そこでSteinitzは7...d3としてメインの変化を避けました。

8.Qxd3?! すぐに8.Ng5!と切り込むのが好手でした。8...Nh6 9.Bxf7+! Nxf7 10.Nxf7 Kxf7 11.Qh5+ g6 12.Qxc5 d6 13.Qd5+ Be6 14.Qxd3と、ピースを取り返しつつクイーンがd3に戻るができます。

8...d6 9.Bg5 Nge7 10.Nbd2 h6 11.Bh4 O-O 12.Nb3 Bb6 こうなってしまうと白に有力な攻め筋はなく、ポーンを捨てた代償はありません。黒は白マスビショップを展開した後、Qd7-Ng6-Ne5とセンターを制圧しながら白のピースを攻めることができます。

13.h3 Be6 14.Rad1 Qd7 15.Bd5 Ng6 16.Bg3 Rae8 17.c4 Bxd5 18.exd5 Nce5?!



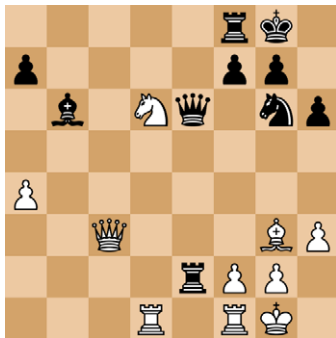
Anderssen - Steinitz 18...Nce5まで



自然な一手ですが、18...Nb4!がより良い手だったようです。19.Qd2 Na6!と進めてc5突きを消してしまうことで、反撃の芽を摘み取ってしまうプランです。白の攻めが止まってしまえば、...Qa5や...f5など黒は手に困りません。この年代にはまだ相手の狙いを消すよりも、勢いよく攻めることが重視されていたように思えます。

19.Nxe5 Nxe5 20.Qc3 Ng6 21.c5 dxc5 22.Nxc5 本譜は21.c5の反撃が入り、Anderssenが望んだシャープな戦いに突入します。

22...Qf5 23.Nxb7 Re2 24.d6 cxd6 25.Nxd6 Qe6 26.a4



Anderssen - Steinitz 26.a4まで

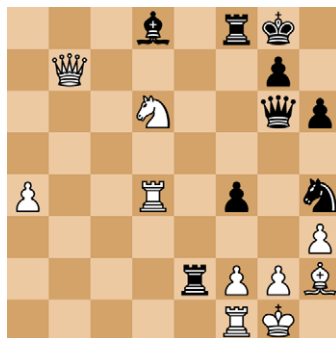
白はポーンを取り返し、d6のマスに強力なナイトを配置し、a4-a5からa7のポーンを狙うプランを作ることができました。こうなると形勢は互角です。

本譜に代えて、黒は25...Qc2!としてエンドゲームを目指せば、アドバンテージをキープできていました。先にセブンスランクにルークが侵入できていることと、f2が潜在的な弱点になっていること

で、白を受け身に追い込むことができます。

26...Bd8 27.Qc5 f5! 黒がチャンスを作れるのはキングサイドしかありません。g3のビショップはd6のナイトをサポートする重要な役割を果たしていますので、ビショップを攻めるのが最も効果的なプランです。

28.Qxa7 f4 29.Bh2 Nh4 30.Qb7 Qg6 31.Rd4? 白はaファイルにパスポーンを作り、反撃の体勢を整えてからf4のポーンを取りにいきましたが、Steinitzはこのチャンスを見逃しませんでした。唯一、黒が勝ちになる手を発見できますか？



Anderssen - Steinitz 31.Rd4まで

31...Bb6!! b7のクイーンが動けない(32.Qxb6?? Qxg2#)ことを利用して、ビショップを好位置に戻す手が絶好の一手です。

32.Rb4のようにヨコに逃げると、32...Bxf2+ 33.Kh1 Qxd6で黒優勢。途中、32...Bxf2+に33.Rxf2は33...Re1+ 34.Rf1 Rxf1+ 35.Kf1+ Qxd3から黒の攻めが継続します。そこでAnderssenはタテにルークを引

きましたが…。

32.Rdd1 Re6 33.a5 Bc5 Steinitzはd6のナイトに狙いをつけます。このナイトが逃げるためのマスが少ないこと、ナイトを守るためにクイーンを使えないことが、白の手を難しくしています。

34.a6 Re7 35.Qd5+ Kh8 36.a7 Bxa7 -/+ Anderssenはパスポーンを捨てることでナイトを助けますが、そうするとキングサイドで攻めの体勢を築く黒が有利を取る形になりました。

37.Rfe1 Rxe1+ 38.Rxe1 Kh7 39.Qe4 Rf6 40.Nb5 Re6 41.Qxg6+ Rxd6 42.Nxa7 Rxd6+ 43.Kh1 Steinitzは体勢の有利を駒得に変換し、有利なエンドゲームに持ち込みます。

43...Rxd6+! 44.Kxh2 Nf3+ 45.Kg2 Nxe1+ 46.Kf1 Nd3 47.Nc6 Kg6 48.Ke2 Nc5 49.Kf3 Ne6 50.Ne5+? ...Kf5を止めるため、50.Ne7+!ならドローチャンスがありました。

50...Kf5 51.Nd3 g6 52.Ne1 Nd4+ 53.Kg2 Ke4 54.Kf1 f3 黒はキングを前進することに成功し、抑え込みが決まりました。後は、gとhのパスポーンを進めるだけです。

55.Kg1 g5 56.Kh2 h5 57.Kg3 Nf5+ 58.Kh2 g4 59.hxg4 hxg4 60.Kg1 Kd4 61.Nc2+ Kd3 62.Na3 g3 63.Nb5 g2 0-1

このマッチに8-6で勝利した

Steinitzは、名実ともに世界トップクラスの仲間入りを果たしました。続くトーナメントの成績は振るわず、Steinitzが「世界一であるか」については議論の余地がありました。少なくともBirdやZukertortといった強豪プレイヤーにマッチで勝利したことから、最強候補と目されていたことは間違いないでしょう。

Steinitzはこの頃から、より安定した成績を求めて、少しずつチェスの考え方を変えていきます。コンビネーションを主体としたスタイルで指されたゲームを研究した彼は、そのスタイルに欠点があることを発見します。攻撃は、相手がすでに弱体化しているときのみ成立するものであり、それまで派手な成功を収めていたサクリファイスは正しいディフェンスの前には成立しなかったのです。

一方、正しいディフェンスは攻撃に比べてエネルギーを必要としません。そこでSteinitzは、よりシンプルかつ確実に相手のポジションを弱めていく手法を探し始めました。

YouTubeの講座 ([www.youtube.com/watch?v=GKPMHbqDmk](http://www.youtube.com/watch?v=GKPMHbqDmk)) で紹介した1870年のPaulsenとのゲームは、ロマンチック時代からポジショナルプレーの時代へ進化する途中のゲームといえるかもしれません。

Steinitzはポジショナルプレーの理論をひっさげ、1872年ロンドン、1873年ウィーンのトーナメントでそれぞれ勝利を収めます。Anderssen、Blackburne、Zukertortといったそうそ

うたるメンバーの中での優勝は、改めて世界にSteinitzの存在を知らしめたといえるでしょう。

しかしウィーンのトーナメントが終わった後、Steinitzは突如真剣勝負の場から身を引いてしまいます。1876年にBlackburneとのマッチで勝利した他は、1882年まで競技の場でプレーすることはありませんでした。

その間、彼はチェスジャーナリストとして、主に英国の雑誌、スポーツ紙などでコラムを連載しながら生計をたてていたといえます。現代でいう観戦記のような記事を書いており、その中でまだ当時は世に出ていなかった「ポジショナルプレー」の理論を積極的に発信していたようです。

もちろん、他のプレイヤーにとっては、誰も知らない理論で自分のゲームを批判的に書かれるのは気持ちの良いことではなかったでしょう。Steinitzのコメントは舌鋒鋭く、ときには「インク戦争」と呼ばれる激しい論争を引き起こしたようです。

この「評論家時代」がポジショナルプレーの進化に一役かったのは間違いないでしょう。1882年、競技に復帰した彼は、ウィーンのトーナメントで優勝します。このトーナメントはその時点での「史上最強トーナメント」と言われていますが、Steinitzはポジショナルプレーを活かして、しばしばライバルたちをいとも簡単に負かしてしまいました。いくつか例を見てみましょう。

**Steinitz, W**

**Mackenzie, G**

Wien International 1882 (20)

現代ではIQPと呼ばれる形です。白のピースはどのように配置するのが理想的でしょう？



Steinitz - Mackenzie 9...Bb6まで

**10.a3!?** 白のビショップをb2に置き、ナイトはb3に置いて、黒のd5ポーンを止めるのがポジションに沿った一手です。d5ポーンを起点にした攻めを止めてしまえば、逆にポーンを目標にすることができます。

実際にはa3-b4-Bb2ではなく、10.b3!とすぐにBb2の形を作りに行く手がまさらですが、Steinitzの手が局面の特性に沿ったものであることに注目してください。

**10...Ne7?** (10...Bg4! 11.b4 d4 =/+)

**11.b4! Bf5 12.Nb3!** 黒は中央からの反撃を封じられ苦しくなりました。白はこの後、Bb2-Rc1-Qe2-Rfd1のように自然に展開していけば、d5ポーンを攻撃することができます。実戦は黒が無理やりナイトをサクリファイスしましたが、



成立せず白の勝ちとなりました。

**Steinitz, W**

**Weiss, M**

Wien International 1882 (34)

先程よりはやや難しい例です。黒に比べてやや展開が遅れていますが、どのように指すべきでしょうか？



Steinitz - Weiss 11...Qc7まで

**12.b3!** 黒から...c4と突いてアクティブに指されては、不利になります。そこで12.b3から黒のアクションを封じつつ、Bb2-Rae1の展開を目指します。黒はピースの展開では先行していますが、戦いを起こす場所がありません。

**12...Be7 13.Bb2 a5 14.a4!** 体勢が整うまでは戦いません！

**14...Nbd5 15.Nc4 Nb4 16.Rae1 Nfd5 17.Nfe5 Bf6 18.Qf2 Be8 19.g4!** 準備が整ったので戦闘開始です。驚くべきことに、Stockfishはこの局面で+2を超える評価値を出します。開戦する時にはすでに勝利している。戦略家としてこれほどの成功があるのでしょうか？

1883年、Steinitzはロンドンのトーナメントで2位となり、その後イギリスを離れてニューヨークに移住します。ロンドンでの結果はチェス界の機運を盛り上げるに十分でした。「今、誰が世界で一番強いのか？」

Steinitzのライバルとして名が上がったのは、そのロンドンで優勝を飾ったJohannes Zukertort (ヨハネス・ツケルトールト) でした。Anderssenの直弟子であり強力なアタッカーでもあったZukertortは、ポジショナルプレーを掲げるSteinitzと度々舌戦を繰り広げていました。

Steinitz不在の中、数々のトーナメントで成功を収めていたZukertortは、一部では世界チャンピオンと呼ばれていたといいます。SteinitzはZukertortに世界チャンピオンを決定する勝負を持ちかけました。長い交渉の末、2人による史上初めて公式の世界チャンピオン決定戦が開催されることになりました。

この歴史的なマッチは、ドローをカウントせずに10勝先取したほうが勝利というルールで、1886年の1月にニューヨークで始まりしました。

Steinitzは初戦こそ勝利したものの、2ラウンドから4連敗を喫します。その中には大優勢を確保しながら、ピースをブランダーしてしまった逆転負けも含まれていました。

しかし、ここからSteinitzは後世

に語り継がれる復活を遂げます。ドローをはさみながら3勝を返し、会場がニューオリンズに移ると、更に1勝を返して4-4に迫いつきました。Steinitzは自身の考案したポジショナルプレーの原理原則に則ってプレーしており、苦しい場面でも容易に崩れることはありませんでした。

逆にZukertortは、Steinitzのポジショナルプレーについていけず、簡単に土俵を割ってしまうシーンが多く見られました。

**Steinitz, W**

**Zukertort, J**

World-ch Match 1886 (16)

**1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bb5 Nf6 4.d3 d6 5.c3 g6 6.d4 Bd7 7.Nbd2 Bg7**



Steinitz - Zukertort 7...Bg7まで

Ruy Lopezで...d6から...Bd7とするラインは、Steinitzも好んだことからいまではSteinitz Defenceと呼ばれます。SteinitzはRuy Lopezの他にも、いくつかのe4定跡で名を残しています。

**8.dxe5 Nxe5 9.Nxe5 dxe5 9...Bxb5?** には10.Nxf7! Kxf7 11.Qb3+で1ポー

ンアップです。

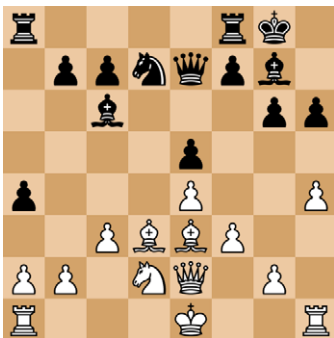
#### 10.Qe2 O-O 11.Bd3 Qe7 12.f3

まずはしっかりe4のポーンをサポートし、センターを固めにいきます。e5のポーンが固定されると、g7のビショップが使いづらくなることも視野に入れての一手です。

ただ、現代の感覚からするとこの手はやや過剰で、12.Nf3からO-Oと自然に指すのがおすすめです。12.f3は12...Bh6!を許してしまいます。

12...Bc6 13.Nb3 a5 14.Be3 Nd7 15.h4!? センターを固めてからのサイド攻撃は、Steinitzが得意とする攻めの一つです。15.O-O-O a4 16.Na1!?も有力でした。

#### 15...a4 16.Nd2 h6?!



Steinitz - Zukertort 16...h6まで

16...Nc5 17.Bc2 a3 18.b4 Ne6とよりアクティブに指していくべきでした。Steinitzが目論んでいた通り、このディフェンスは黒の陣地に大きな弱点を作ります。

17.h5! g5 18.Nf1 f5のマスは黒ポーンでサポートできない弱点に

なりました。白はすかさずナイトをf5に置きにいきます。

18...Nc5 19.Bc2 Rfd8 20.Ng3 Bd7 Zukertortは邪魔なナイトをビショップで消しにいましたが、Steinitzは別のポジショナルアドバンテージを稼ぎにいきます。

#### 21.O-O-O c6 22.Rd2 Be6 23.Nf5 Bxf5 24.exf5 Rxd2 25.Qxd2 Nd7 26.g4 Nf6 27.Be4

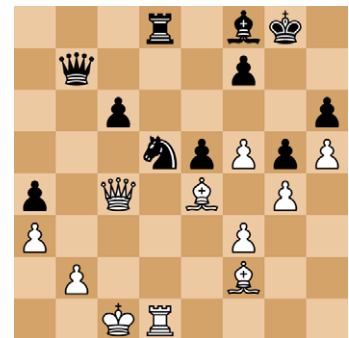


Steinitz - Zukertort 27.Be4まで

Steinitzは黒のポーンを黒マスに固定することで、g7のビショップをバッドビショップにしてしまいました。

27...Rd8 28.Qc2 Nd5 29.Bf2 b5 30.a3 キングサイドで有利な体勢を築いた白は、クイーンサイドでの反撃を潰しにかかります。注意すべきは自分の攻め筋も消してしまうことですが、白にはRd1からBxd5やc4といった手で局面を動かすプランがあります。

#### 30...Bf8 31.Rd1 Qb7 32.c4! bxc4 33.Qxc4



Steinitz - Zukertort 33.Qxc4まで

黒の反撃を潰しつつ32.c4から局面を開き、ここでは白がはっきり良くなりました。c6やa4が弱い黒に対して、白の弱点はb2しかありません。

33...Rb8 34.Rd2 Nb6 35.Qc3 Nd5 36.Qc4 Nb6 37.Qd3 Be7 38.Rc2 Nd5 39.Qc4 Bxa3 Zukertortはビショップを切って局面を打開しに行きましたが、これは明らかに無理筋です。Steinitzは特に難しいタクティクスを決めることなく、勝利を収めました。

#### 40.bxa3 Qb1+ 41.Kd2 Rd8 42.Bxd5 Rxd5+ 43.Ke3 Rb5 44.Qxc6 Rb3+ 45.Ke2 Kh7 46.f6 Rb2 47.Rxb2 Qxb2+ 48.Kf1 Qxa3 49.Qe8 1-0

Steinitzは後半戦で一気にZukertortを追い詰めます。8勝5敗で迎えた19ラウンドでは、圧倒的な力量差を見せつけました。

Zukertort, J

Steinitz, W

World-ch 1866 (19)

#### 1.d4 d5 2.c4 e6 3.Nc3 Nf6 4.Bg5



**Be7 5.Nf3 O-O 6.c5?!** cxd5の可能性を消してしまい、ポジショナルプレーの観点からは疑問手です。6.e3!が最も自然な一手です。



Zukertort - Steinitz 6...c5まで

**6...b6! 7.b4 bxc5 8.dxc5 a5 9.a3 d4!** 白キングがセンターに取り残されているうちに、強力なアクションを仕掛けます。

**10.Bxf6 gxf6 11.Na4 e5 12.b5 Be6 13.g3 c6 14.bxc6 Nxc6 15.Bg2 Rb8** 次にBb3があるため、白はキャスリングできません。仕方なく16.Qc1と受けますが…。

**16.Qc1 d3!** 局面が素早く動くことを要求しているならば、Steinitzはそれに従います。白がキャスリングを終えてしまうと、黒のアドバンテージは減ってしまうため、その前にポイントを稼がなくてはなりません。

**17.e3 e4 18.Nd2 f5 19.O-O** すでに黒が大きく優勢ですが、次の一手がSteinitzのプレーのレベルの高さを物語っています。現代の言葉でいうならProphylaxisの考え方に近いかもしれません。



Zukertort - Steinitz 19.O-Oまで

**19...Re8! 20.f3** 19...Re8は地味ですが、白の反撃にカウンターを用意した一手です。白は20.f3としてセンターから動くより他にありませんが、Steinitzはしっかり返し技を準備していました。

**20...Nd4!!** 強烈なナイトの飛び込みで勝負は決しました。次にNe2+があるため取るよりありませんが、センターに強力なコネクトドパスポーンができます。このとき、e8のルークが遠くパスポーンをサポートしているのがポイントです。

**21.exd4 Qxd4+ 22.Kh1 e3!** 22...Qxa4と駒得するよりもパスポーンを進める方がはるかに強力です。

**23.Nc3 Bf6 24.Ndb1 d2 25.Qc2 Bb3 26.Qxf5 d1=Q 27.Nxd1 Bxd1 28.Nc3 e2 29.Raxd1 Qxc3! 0-1**

最後はパスポーンが白陣地で大暴れして決着。攻めの名人Zukertortに何もさせず攻めきった、Steinitzの快勝譜となりました。

マッチの最終スコアはSteinitzの10勝5敗5ドロー。Zukertortは前半

でリードしたものの後半15戦で1勝しかできず、このマッチは後に「世界選手権史上最大の逆転劇」と呼ばれるようになります。

Steinitzはこの勝利で、初代の公式世界チャンピオンの座に就きました。1889年にはChigorinを相手に初の防衛戦を行い、防衛に成功します。1894年、58歳のときに32歳年下のLaskerに破れるまでチャンピオンであり続けたことから、その抜きん出た強さがうかがえるのではないのでしょうか。

今回の記事では、Steinitzのプレースタイルの移り変わりを中心に紹介してみました。ポジショナルプレーが生まれた時代の雰囲気を感じていただけたら、著者としては嬉しい限りです。

もちろん、まだまだ荒削りな時代のゲームですので、理解しづらいところもあったと思います。しかし、Steinitzの成功によって、チェス界には続々とポジショナルプレーの後継者が現れました。その代表はLasker、Tarrasch、Nimzowitschらですが、彼らはSteinitzの理論を急速に発展させていき、より洗練されたプレーを見せるようになります。

次回の記事ではそんな時代のチェスを味わってみましょう。ぜひお楽しみに！

# チェス大会 【文】上杉賀子 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子(上杉 晋作・2007年高校1年生で全日本史上最年少チャンピオン)が2009年チェス国籍日本の最年少FIDEマスターとなり2010年全米高校選手権で優勝するまで(さらにアメリカのSenior Masterの資格となるUSCFレート2400の壁を超えるまで)参戦した、アメリカの全ての公式戦、約180大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から1年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレーヤーとして出陣です。

## NO.60 メリーランド州学校対抗チーム選手権大会

2006年2月18日

晋作(14歳)の結果: 4.0P/4Game  
レーティング 2079→2081

大会詳細: [USCFサイトより](#)

メリーランド州学校対抗チーム選手権で晋作率いるフーバー中学が中学校の部で優勝し昨年に続き連覇しました。この大会は4人一組でレート順に並び対戦するボードマッチです。もう州レベルの学生用の大会は出ないと決めていましたがその数日前、選手と補欠を自宅に招き、チェス練習をして、やはり自分が1番ボードに出ないと、と思ったように迷った末に出場を決めました。今年は昨年より戦力がダウンし、一方ライバル校が充実させる中、最終ラウンドの決勝戦は2005年覇者の晋作の中学と2004年の覇者の中学が対戦。会場のステージにあがりこの2校の対決が行われましたが、相手は皆晋作のチェス仲間

間で、雰囲気的には和気あいあいでした。結果、2-2となり同点優勝、なんとか2年連続メリーランド州チャンピオンになりました。

優勝トロフィーは1番ボードと3番ボードが勝ったうちがもらいました。80チームが参加し数年前と比べてメリーランド州の学生チェスはとても盛況になってきたと感じました。その役割の一旦をになっているのが晋作世代で、切磋琢磨しながら全米レベルとなり、その活躍に刺激されたことが大きな理由のひとつだと思います。晋作世代に続く次の世代にも有力な子供達が育ってきておりとても楽しみです。

子供たちの世話の合間に、主人はチーム付き添いのお父さんとチェス対決し、私は付き添いのお母さんたちと楽しく過ごしました。

大人の大会で少しは貫禄が出てきた晋作ですが同年代の子供達と一緒にいる時が一番楽しそうです。まだまだ中学2年の子供ですね。



自宅で写真撮影に応じる晋作

このころ、世界ジュニア代表のことなどで地元紙2紙にまた晋作の記事が載りました。うち一紙はまた自宅でインタビューがあってカメラマンもきました。こうしてアメリカでは晋作のチェス活動に興味を示して新聞にも載せていただけてありがたいです。



自宅で練習をするフーバー中学のメンバー



対戦する晋作とフーバー中学のメンバー



優勝トロフィーを囲んで記念写真



# Tournament Report 大会レポート

## ゴールデンウィークオープン 2022



全日本チェス選手権と同時期に開催された、ゴールデンウィークオープン 2022。5月2日から4日の3日間、東京、北区 北とぴあにて開催され、45名のプレイヤーが集まりました。

この大会はスイス式 6R、90分 + 30秒 / 手で、NCS・FIDEの公式戦になります。国内で国際戦のデビューができるという、初めて国際試合に出場したいプレイヤーにはおすすめの大会です。開催されるのは3年ぶりとなりました。

会場外の待機場所では多くの選手たちが、チェスという同じ趣味を持つ旧友との再会を楽しんでいました。プレー開始直前まで、スマホを手に仲間と撮影会に勤しんでいる微笑ましい姿も数多く見られました。

プレー開始から10分の間は見学者の写真撮影も許可されているため、会場にはまだざわめきが残っています。ところがその時間を過ぎた頃からムードは一変。時折大きなため息が響き渡るくらい、会場は静まり返ります。指した後うなずく選手、首を振る選手。試合前の笑顔にあふれた、お祭りにも似た高揚感はなくなっていま

した。

最年少は11歳、最年長は69歳。年齢も住む場所も様々な人たちが集まり、本気でチェスに向き合った3日間。大会が終わった後「またな！」と手を振り別れていく選手たちは、スタッフからのメッセージボードに書かれた「来年もお会いしましょう！」という言葉を見てくれたでしょうか。

あなたも来年、ここで会いませんか？あなたと同じく、チェスを愛するたくさんの仲間たちが待っています。

### オープン



- 1位 山口 桃生 5.5/6P
- 2位 横山 雄一 5.0
- 3位 岡山 涼大 5.0

### U1600



- 1位 小林 秀彦 4.5
- 2位 柴田 美咲 4.0
- 3位 武藤 勇宏 3.5

## チェス・コレ！



会場で見かけたチェスファンの姿をピックアップする、チェス トーナメント コレクション

試合気分を盛り上げるためか、チェスモチーフを身につけて会場入りしてくれました自慢のチェスグッズを持参して大会に挑むのも、新しい楽しみ方ではないでしょうか

### 斎藤寛将さん



リュックとスリッポンを格子柄でコーディネート  
チェス盤のようなデザインを合わせた、遊び心を感じます

### 山田幸浩さん



チェス駒盤柄のトートバッグは、なんと奥様の手作り  
内ポケットまで付いた完成度の高さに驚きです



# タクティクス・ジム

## 02 ダブルアタック Double attack

### 例題 △白番



ナイト以外にも**フォーク**(両取り)はできます。それらを含めて**ダブルアタック**と呼びます。チェスは1回に1手しかできないので、ダブルアタックは防ぎにくく強力な攻めになります。

例題は、**1.Qa4+** ならば、e8のキングとb4のビショップの両方を攻める手になっています。黒がチェックに対してどのように応じてもQxb4とビショップを取ることができます。

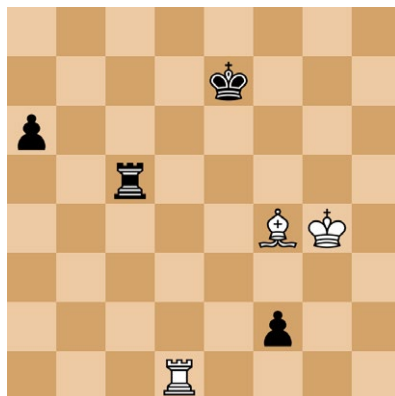
チェックする手はいつでも最初に考えるべき手です。例題ではQa4+しかありません。また、浮いた駒やキングをねらうのがコツです。b4のビショップは他の駒から守られていない浮いた駒です。そう考えれば自然に手が見えるでしょう。

## Level 1

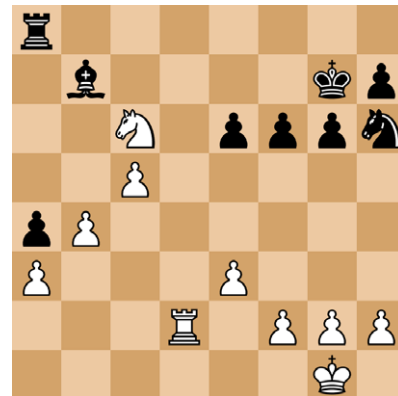
次の10問に  
挑戦してみましょう。  
1問につき3分以内が  
初級者の目安です。  
どれだけ早く  
正解できますか？



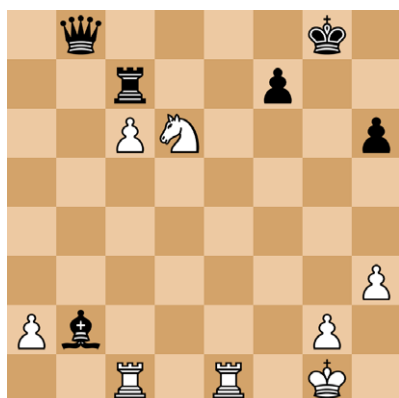
### 01 △白番



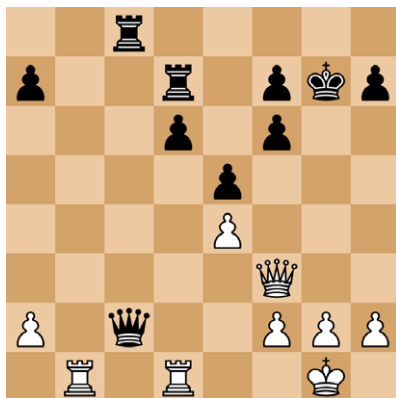
### 02 △白番



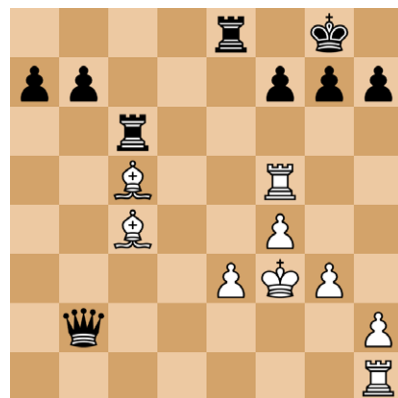
### 03 △白番



### 04 △白番



### 05 △白番

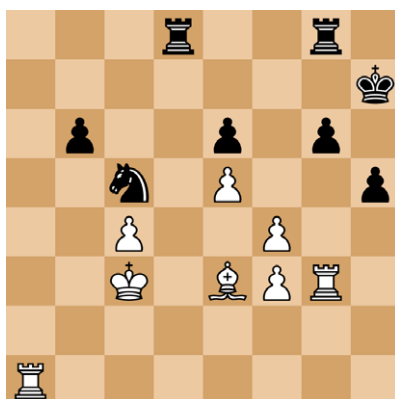


# Level 1

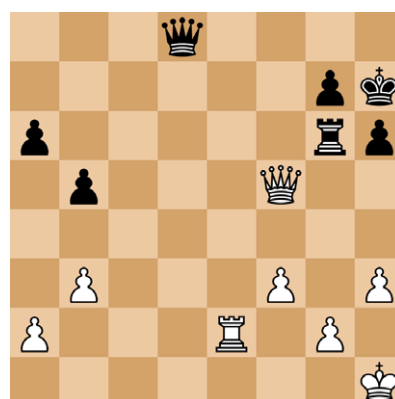
ここから黒番です



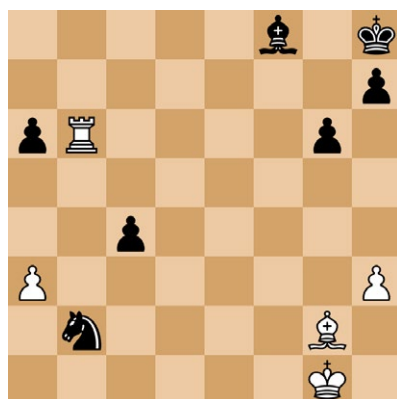
## 06 ▼黒番



## 07 ▼黒番



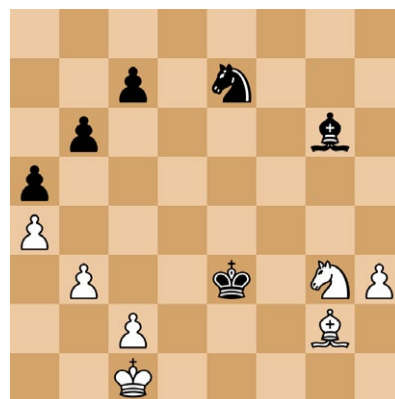
## 08 ▼黒番



## 09 ▼黒番



## 10 ▼黒番



途中から黒番の問題が出て来ました。盤面を逆に考えるのでやりにくいと思いますが、それもトレーニングのひとつです。少しずつ慣れていきましょう。

# Level 2

## 発展問題1 △白番



序盤でよくある局面です。白の2手目がダブルアタックなのでが見えますか？

発展問題は5分を目安に解答します。

## 発展問題2 △白番



覚えたダブルアタックを使うときです。駒得をすることができますか？

できなくても気にしないでください。局面を見て手を探すだけでも上達につながります。

👁 正解は33 ページ

## Interview Next Generation

ユースプレイヤー  
インタビュー

このコーナーでは、これからの日本チェス界を盛り上げる若手プレイヤーをご紹介します。第二回目となる今回は、今年開催されるFIDEオリンピックアードの日本代表チームの最年少メンバー、三津山六花さん。昨年のFIDEオンラインオリンピックアードでも、日本女子代表選手の一人として格上・マスターといった対戦相手からポイントを奪い、大健闘しました。海外の学校でチェスを通して経験したことについて聞いてみました。

### Interviewer



Kanako  
Kinoshita

# 三津山六花さん(12)

*Rikka Mitsuyama*



### Data

三津山 六花  
(みつやま・りっか)  
生年月日：  
2009年9月6日  
チェスを教わった人：  
学校の先生  
趣味：演技、歌、  
ピアノ、読書  
好きな動物：  
ハムスター

### チェスとの出会いは？

4歳でシンガポールに引っ越し、入学したインターナショナルスクールがたまたまチェスに力を入れている学校でした。

5歳から小学5年生までチェスの授業が全員必修で、学校にはとても大きなチェスルームがあって、朝と昼休みには誰でも自由にプレーできました。生徒の半分以上がチェスの盛んなインド出身だったのでチェスの得意な子が多く、チェスルームはいつも大混雑でした。学校のチェス大会には毎回200人以上参加したり、夏休みになるとセルビアやチェコの大会に参加するグループがあったり、チェスの為に入学してくる子もいました。

私は入学した時に全く英語が話せなかったのですが、チェスさえできれば友達ができるチェスルームが好きで毎日のように通いました。少しずつ勝てるようになり、どんどんチェスが楽しくなりました。

最初は年1回、学校の大会にだけ出場していました。そこで入賞できるようになったので、シンガポールのナショナル大会にも出る事を勧められました。7歳の時です。ナショナル大会でトロフィーをもらえると全校生徒の前で紹介されて、教室までの帰り道では「トロフィーを見せて!」とたくさんの友達に囲まれたり、知らない子や知らない先生たちからも「おめでとう!」と一日中声をかけられます。大会に出てよかった、と思える環境でした。チェスに関してとても恵まれた学校生活でした。

学校では、2年に1度グランドマスターが来るイベントがありました。7歳の時にはAnandが来て同時対局があり、みんな1ヶ月前から大騒ぎでした。

9歳の時には女子世界チャンピオンのJu Wenjunが来ました。私は直前のNational Schools Individual Chess



Championshipでメダルをもらえた結果を認められて、同時対局に参加する生徒に選ばれました。イベント後にJu Wenjunに話しかけられて、「チェスは何歳から始めたの?」「チェスは好き?」など質問されました。とても緊張しましたが忘れられない思い出です。

こういったイベントが学校にあったおかげで、海外のプレーヤーにも興味を持つようになりました。

### その後のチェスとの関わり方

指定されたナショナル大会で一定以上のポイントを獲得すると、Singapore Chess Federationの選抜ジュニアトレーニングチームに入る事ができました。

8歳でNational Junior Squadに入り、その後一度選抜から外れましたが、9歳から11歳までは一つ上のレベルのHigh Performance Intermediate Squadに入る事ができました。たくさんのジュニアがトレーニングチーム入りを目指してチェスを頑張っていたので、9歳でもう一度資格をもらえた時には感無量でした。

トレーニングは週1回、前半と後半に分かれていて、前半はシンガポールの監督のGM Bong\*やコーチたちの講義、後半は生徒同士のFIDE戦でした。コーチたちはフィリピン人やミャンマー人のマスターでした。私はシンガポール国籍を持っていませんが、このトレーニングにはTeam Singaporeのユニフォームを着て参加させてもらえました。外国人にも学ぶ機会を与えてもらえてとても幸運でした。

最初の説明会で、「ここはチェスを教える学校ではありません。チェスを通して、将来シンガポール代表として国際大会に出た時に恥ずかしくないマナーを身に付けさせる場所です」と言われます。

具体的なきまりは、「おしゃべりをしない」「試合後に椅子をテーブルの下に戻す」「ボードの駒を最後に片付ける」「上はユニフォーム、下は黒い長ズボン、サンダル禁止」などシンプルでしたが、できなくなってしまう子も時々いました。サンダルで来てFIDE戦に参加できず帰宅させられる子もいました。トレーニング後も、ユニフォームを着ている間は模範的な行動をとるように言われました。

このチームに参加している子たちはみんなレベルが同じなので、毎週の試合で勝ち続ける事がなかなか難しく、私は負けると悔しくてよくトイレで泣いていました。チーム内でレーティングを取って取られてを繰り返しながら、みんなで学んでいく感じでした。レーティングはチェスを続けていけば後からついてくるから今は気にしないでいい、と教えられます。

チームの仲間は、一緒に選抜されて一緒に毎週学んで戦った不思議な絆のある友達になりました。去年日本から参加したFIDE Online Cadets Rapid World Cupの時には、参加してたね、とたくさん連絡をもらえて、チェス仲間がいる事が嬉しかったです。

小学4年生の秋から5年生までは小島慎也先生にもオンラインで指

導を受けました。初めての個人レッスンで、シンガポールの講義とも違って勉強になりました。6年生で日本に帰国してからは受験があったのでチェスの勉強から離れていますが、NCSやFIDEの大会に時々参加しています。

シンガポールでは毎月大会に出ていたので、チェスではいろいろな事がありました。悔しい事や大変な事の方がずっと多かったはずですが、いつも思い出すのはチェスの友達との楽しかった時間です。

### チェス以外で好きなこと、得意なことは?

好きでずっと頑張ってきた活動はミュージカルと模擬国連です。これは中高でも続けていく予定です。

英語が得意で、去年英検1級を取りました。中国語も3年半習ったので少しだけ話せます。

質問に答えられるか不安でしたが、海外にはチェスを授業で教えてくれる学校がある事や、海外のジュニアのトレーニングの一例なら紹介できると思い、インタビューを受けようと思いました。シンガポールの例が伝わると嬉しいです。

\*GM Buenaventura Villamayor

# ‘Kroegloper’ Bar-crawling Tournament in Delft

By Kinoshita, Kanako

Kanako is from Japan and has been living in the Netherlands for 11 years. She works mainly as a freelance translator but also teaches chess to children. She learned how to play chess on her 21st birthday in 2010, which was one of the best birthday presents ever and has changed her life completely...



Hi, I'm Kanako Kinoshita from the NCS Editorial team. During the first weekend of June, some of you were participating in the Japan Rapid Chess Championship in Japan, having an exciting weekend for sure, as well as many chess fans all over Japan had a great time watching the event on streaming.

As for me, I was in Delft, the Netherlands, participating in a unique rapid chess tournament. The event is called "Kroegloper," - bar crawling in English - and to put it simply, it is a tournament where pairs of players play seven rounds of rapid games while touring around cafes in the town. The Delft Kroegloper has probably the longest history in the Netherlands, and since it was first held in 2004, it has become an annual event on Pinksterzondag (Pentecostal Sunday). Thanks to the popularity of the open, casual, and, as the Dutch love to say, 'gezellig' (roughly, "cosy and fun") atmosphere, several Kroegloper competitions have been held in other cities in the last decade as well. Nine years ago, I participated in a Kroegloper in Leiden (famous

for the Siebold Museum and the University of Leiden).

This was the first time in three years that this tournament was held in Delft due to the situation with COVID, and many chess fans were looking forward to playing chess under the most pleasant Dutch weather after the long winter, with clear blue skies and beautiful sites to stroll around. Unfortunately, the weather was not really great, but 188 players in 94 pairs took part in the event to enjoy the historic city of Delft and play chess.

Delft is known as the home of the painter Johannes Vermeer, Delft Blue, and the Delft University of Technology, but its most attractive feature is the beauty of the city with old cobblestone streets and architecture, canals running alongside the sidewalks. A typical Dutch townscape.

Let me introduce the rules and format of the tournament. Entries are made in pairs, and standings

NCS編集部の木下奏子です。6月の第一週末、日本では全日本ラピッドチェス選手権が開催され、参加者の皆さんはもちろん、日本中のチェスファンの方々が中継でその様子を見ながら大いに盛り上がったのではないのでしょうか。

私はというと、オランダはデルフトにて、とあるラピッド大会に参加しておりました。「Kroegloper (クルーフローパー)」と呼ばれるイベントで、簡単にいうと、ペアでカフェ巡りをしながらのラピッド大会です。オランダでは恐らくこのデルフトのKroegloperが一番長い歴史をもち、2004年に初めて開催されてから、毎年Pinksterzondag (ペンテコスタの祭日の日曜日)の恒例行事となっています。オープンでカジュアル、オランダ人が大好きなGezellig (ヘゼルフ) (大雑把にいうと「和やかで楽しい」)な雰囲気が人気なことから、ここ10年ほどは他の都市でもいくつかKroegloper大会が開かれており、9年前にライデン(シーボルト博物館やライデン大学があることで有名です)のKroegloperにも参加したことがあります。

デルフトの本大会はコロナ禍の影響で実に3年ぶりの開催で、春から夏にかけてのオランダの最も心地よい気候、晴れ渡る青空の元、美しい街並みを散策しながら



## ‘Kroegloper’ Bar-crawling Tournament in Delft

By Kinoshita, Kanako



Photo: Harry Gielen

are determined based on the total rating of the two players (or approximate strength if one has no rating). The time control is 20 minutes per player, the players of each pair (board 1 and board 2) play against each other based on Swiss format, and the board points are used as the result. The venues are fourteen cafes throughout the city. As soon as the pairings are announced, the players are assigned a cafe to play at, and they go to the designated place by themselves.

You may be wondering; With fourteen venues scattered throughout the city, how much work does it take to enter the results of the matches, figure out the pairings and next venues, and tell the participants where to go? Well, when I participated in the Kroegloper in Leiden, there was one staff member stationed at each venue, who input the results into the system and informed the participants of the next pairings

and venues.

However, at this time, the number of staff was enough to be counted on one hand (as far as I could see) and apart from the players, no one was present at any venue. There was almost no time to wait for the next round, and the proceedings were stress-free, with players allowed to start as soon as each other's players were ready. How? Apparently, in this decade, someone decided to create this software "[StickChess](#)" designed specifically for Kroegloper!

Pairings and destinations are displayed, players check them themselves, move to each venue, and enter the results after each match. Just as simple is that! Everything was done with a few taps on the screen, and even elderly participants who had little knowledge of these high-tech programs seemed to have no problem handling it. Not only is it easy to use, it even includes a

らチェスをするをたくさんのチェスファンたちが心待ちにしていました。あいにく当日はお天気に恵まれませんでした、それでも94組188名のプレーヤーが集まり、歴史あるデルフトの街を堪能しながらチェスを楽しみました。

画家フェルメールの故郷としてや、デルフト焼き、デルフト工科大学などで知られているデルフトですが、その魅力はなんといっても都市の美しさ。昔ながらの石畳と建築物が残っており、歩道の隣には運河が流れるオランダらしい街並みを目にすることができます。

大会のルールや形式についてご紹介します。二人一組のペアでエントリーし、二人の合計レーティングをもとにスタート順位が決まります（レーティングがない場合は大体の強さ）。持ち時間20分切れ負け、ペアのそれぞれ（ボード1とボード2）のプレーヤーが対戦し、ボードポイントの結果とし、それをもとにスイス形式でペアリング、最終順位が決まります。会場は市内に点在するカフェ14か所で、ペアリングが発表されると同時に次の会場が指定され、自分たちでカフェへと向かいます。

「会場が14か所に点在していて、試合結果を入力したりペアリングや次の会場を考えたり参加者に伝えたり、どれだけ運営の手が必要なんだ?！」と思いますよね。ライデンのKroegloperに参加した時は、各会場に運営スタッフが一人駐在していて、結果をシステムに打ち込み、次のペアリングと会場を伝えるお仕事をしてくれていました。

しかし、今回の大会では運営の数は片手で足りるほど（見る限りは）で、各会場には駐在スタッフもいませんでした。次のラウンドを待つ時間もほとんどなく、お互いのプレーヤーが揃えば開始していいというストレスフリーな進行。それもそのはず、なんとKroegloper専用のソフトウェア「[StickChess](#)」が開発されていたのです！

ペアリングと行き先が表示され、プレ



## ‘Kroegloper’ Bar-crawling Tournament in Delft

By Kinoshita, Kanako



Photo: Harry Gielen

search function for participants' names and a map to the next cafe so that you can quickly find your pairing and destination. It also has a function to set the maximum distance to the next venue when setting up the tournament. Thanks to that, our travel was always within a 10-minute walk.

What is most surprising is that this software is open source and free of charge. On the website, they say "please consider buying us a beer by donating." How Dutch!

I said it was Swiss format, but until the first four rounds, the next pairings were available before all the games were finished. It seems that the games that last longer have a provisional result based on a certain expected value, and the next pairing is set based on that value. Of course the last three rounds had a significant impact on the results, so pairings were out after all the results were entered. There was some waiting time between these rounds as a result, but by that time, we've all become a little tipsy and appreciated having

time to talk with our opponents.

We played most of the games with old analog clocks, and oh what the tension! Both flags tilted as high as they would go but not knowing how many seconds were left on each other's

clock... It was unbearable. My partner had not played OTB in several years, but he was able to notch some points off against strong opponents and finished 5/7P! I, on the other hand, had a disappointing start, losing three games in a row, but I managed to get 3 points in the second half (probably because I started drinking beer instead of coffee after the second round). We finished in 34th place with 8BP in total. The winners of the tournament were IM Stefan Kuipers and IM Jan-Willem de Jong (12 BP).

All in all, it was a great event, and as a chess player, I could not wish for a better way to spend one Sunday afternoon.

You can see more of atmospheric pictures from [here](#), taken by a photographer Harry Gielen.

こちらの[リンク](#)から大会の様子を見ることができます。(ハリー・ヒーレン)

ーヤーはそれらを自分たちで確認して各会場に移動、試合後は結果をそれぞれ入力します。全ての操作は画面をタップするだけの簡単なもので、年配のペアの方々もいましたが、問題なくできているようでした。このソフトウェア、かなり優れたもので、すぐに自分のペアリングを見つけられるように名前の検索機能や次のカフェまでの地図までついているんです。また、次の会場までの移動距離が長くなりすぎないように、大会設定をするときに移動距離の最長距離も設定できるように、全ラウンドの移動距離は徒歩10分以内でした。

そして驚きなのは、このソフトが全てオープンソースで無料で使えるということ。ウェブサイトには「ビール代のための寄付は大歓迎だよ（サーバーの運営費にもなるしね）」と書いてありました。オランダ人はケチで有名なはずですが？！

スイス式といいましたが、初めの4ラウンドまでは全ての試合が終わらずに次のペアリングが出ていました。ということかという、長引いている試合はある一定の期待値に基づいて仮結果を出し、それを基準に次のペアリングが決まる方式になっているようです。さすがに最後の3ラウンドは結果にも大きく影響するので、全ての試合結果の入力が終わってからペアリングが出され、少しだけ待ち時間がありました。

対局時計がアナログ式の時計で、両プレイヤーともにフラグが思いっきり傾いているけどお互いに何秒残ってるのかわからない緊張感はたまりませんでした。パートナーは数年ぶりのOTBでしたが、強豪相手からもポイントを削り5/7Pの好成績！一方私はというと、最初3連敗という不甲斐ないスタートでしたが、コーヒーからお酒に切り替えた勢いか（笑）後半なんとか3ptを取り、合計8BPで34位でした。優勝はIM Stefan KuipersとIM Jan-Willem de Jongのペア（12pt）でした。

素敵な街でカフェ巡りをしながらチェスも楽しめる、チェス好きにとっては最高の日曜日になりました。

### タクティクス・ジム 解答

01 1.Bd6+

02 1.Rd7+

03 1.Re8+

04 1.Qg4+

05 1.Bxf7+

06 1...Rd3+

07 1...Qd1+

08 1...Bc5+

09 1...Qh5+

10 1...Kf2

発展問題1 1.Nxc6 bxc6 2.Bxc6+

発展問題2 1.Rxe6 Rxe6 2.Bxf5+

出題は 26～27 ページ

### 編集部

木下奏子

神田大吾

ごまめ

黒坂雄基

山内美加

りんごぼうず

萩原貴子

原島もも

真鍋浩

山田明弘

影の助っ人

(順不同)

### 発行

日本チェス連盟

(一般社団法人 National Chess Society of Japan)

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。

ご意見・ご感想などは [japanchess.editor@gmail.com](mailto:japanchess.editor@gmail.com) までお寄せください。